

**「丈夫なイネ・うまいコメづくり」を実践し、
高品質安定生産を実現しよう！**

新津農業普及指導センター
新津本所：0250-24-9627
津川分室：0254-92-0965

～めざせ！コシヒカリ 1 等級比率 95%以上、反収 9 俵／10a～

－ これからのコシヒカリの栽培重点事項 －

- ◎ 根の活力維持のため飽水管理を継続し、特に葉色の淡いほ場では徹底する。
- ◎ 出穂期は、平年より 3 日程度早まる見込み。
- ◎ 1 回目穂肥は、生育診断（草丈、葉色）により適正に施用する。
特に葉色が濃いほ場では、遅め、控え目に施用する。
- ◎ 2 回目穂肥は、後期栄養確保のため確実に施用する。
- ◎ 後期栄養凋落が懸念される場合は、出穂 3 日前までに 3 回目の穂肥を施用する。

1 調査ほ場の生育状況（7 月 11 日現在普及センター調査ほコシヒカリ）

- 草丈：長い〔6/30～7/11 までの 1 日当たり伸長量 1.55cm（指標値：1.5cm）〕
- 莖数：並～やや少ない
- 葉数：やや早い（5 月 10 日頃田植えのほ場で、幼穂が確認されはじめている）
- 葉色：濃い〔葉色のさめが緩慢〕

調査地点	田植日	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
秋葉区	5 月 6 日	71 (110)	452 (95)	11.1 (0.0)	37.7 (2.7)
五泉市	5 月 6 日	71 (109)	375 (79)	11.6 (0.4)	40.0 (5.0)
阿賀町	5 月 8 日	63 (96)	350 (74)	10.9 (-0.2)	32.4 (-2.6)
指標値	5 月 10 日	65	475	11.1	35.0

※（ ）内は指標値比(差) ※コシヒカリは秋葉区 3、五泉市 4、阿賀町 1 地点の平均値

**2 出穂期予測と穂肥時期・施用量のめやす【稚苗 5/5 植え・化学肥料・分施の場合】
(7 月 11 日現在)**

品種名	出穂期 (予想)	穂肥時期(出穂前日数)						合計チリ量 (kg/10a)
		1 回目		2 回目		3 回目		
コシヒカリ	8 月 4 日	7/17～7/20	(18～15)	7/25	(10)	8/1	(3)	1～3
こがねもち	8 月 1 日	7/14～7/17	(18～15)	7/22	(10)	—	—	1～3

※ 3 回目の穂肥は食味維持のため、時期(出穂 3 日前まで)・量(1kg/10a 以内)を厳守

※ 実際の出穂期は気象条件で大きく変動することもあるため、今後の情報に注意する。

〈5 割減栽培や有機質肥料の場合〉

※ 5 割減等の栽培を行っているほ場では、化学肥料施肥量に注意する。

※ 有機質窒素割合が 50%以上の肥料は、2 日程度早く施用する。

【参考：田植日別コシヒカリの幼穂形成期及び出穂期の予測（7 月 11 日現在）】

田植日	5 月 5 日	5 月 10 日	5 月 15 日
幼穂形成期	7 月 12 日	7 月 13 日	7 月 14 日
出穂期	8 月 4 日	8 月 5 日	8 月 6 日

3 コシヒカリの穂肥施用 ～生育診断を実施し適切に施用～

☆【1回目は生育診断に基づき適期に施用！】葉色と草丈を確認

ほ場間差が大きく、天候により葉色の急激な低下も考えられるので、「1回目穂肥時の診断のポイント」等を参考に施用する。

- ① 草丈、葉色とも基準値以下 → 基準量を施用
- ② 草丈基準値以下、葉色基準値より濃い → 葉色の低下を待って施用を判断
- ③ 草丈基準値以上、葉色基準値より薄い → ムラ直し程度に施用

☆【2回目は後期栄養の確保のため確実に施用する！】

○出穂10日前頃（幼穂10cm程度）をメドに確実に施用する。

☆【3回目の穂肥の対応～食味維持のため、時期・量を厳守する】

区分	追加穂肥が必要な場合	施肥時期	チッソ施肥量
分施	後期栄養凋落で品質低下が懸念される	出穂期 3日前まで	1.0kg/10a 以内
基肥 一発	出穂10日前までに葉色が33(SPAD値)、 4.5(葉色板)を下回る	出穂期 10日前	

【1回目穂肥時の診断のポイント】

診断項目	基準値	診断のポイント
① 草丈	75～80cm	長い場合は倒伏注意
② 葉色 SPAD(葉色板)	32～33 (4.2程度)	濃い場合は時期を遅らせる
③ 穂長(最長茎)	1cm以上	1cm以下は下位節間が伸長中なので待つ

4 幼穂形成期以降は水を切らさない管理を徹底する

- (1) 幼穂形成期以降は、飽水管理を徹底する。
- (2) 完全落水は9月に入ってから実施する。

5 病虫害防除の徹底

- (1) **斑点米カメムシ類：注意報発令中**。農道・畦畔や水田内の草刈りを徹底する。
- (2) **いもち病**：わたぼうし等いもち病に感染しやすい品種では、穂いもち防除を必ず実施
- (3) **紋枯病**：昨年発生が多かったほ場では防除を徹底（共同防除ほ場を除く）
- (4) **稻こうじ病・墨黒穂病**：昨年発生したほ場を中心に防除を徹底
- (5) **ごま葉枯病**：秋落ちさせないように、穂肥を適正に施用

6 新之助 調査ほ・実証ほ の生育情報（7月11日現在）

設置 場所	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
秋葉区	58	569	12.1	36.3
五泉市	57	570	12.1	38.0
阿賀町	64	515	12.0	37.3

新之助の生育は、栽培暦よりやや早く進んでいます。

栽培指針を参考に、**幼穂長を確認して、適期に穂肥を施用**しましょう。

【幼穂形成期(7/20頃)の理想生育】
草丈: 58～64 cm、莖数: 500～550 本/m²
葉数: 11.5～12.5、葉色 32～35

フェーンや強風時には湛水しましょう！※気象台の情報に留意してください。

○強風注意報が下越（新潟市）に出されたら湛水しましょう。

○風向きが「東-南東」の場合、ダシ風に注意！